

へき地医療に関心を

岡山で 研修医に呼び掛け 初の研究会

研修医に地域医療に
ついでに理解を深めて
もらおう「岡山地域医療
研究会」（岡山医師研

修支援機構地域医療病
院部会など主催）が26
日、岡山市北区青江の
岡山赤十字病院で初め
て開かれ、保健、福祉、

医療が一体となり住民
の健康を守る「地域包
括ケア」の講演などが
あった。

研修医や県内の病院
長ら約40人が出席。地
域医療を担う人材を育
てる岡山大大学院寄付
講座の佐藤勝教授は、

勤務する哲西町診療所
（新見市）での地域包
括ケアを紹介。「地域
の診療所に暗いイメー

ジを持って来る研修医
が多いが、研修を終え
ると高い関心を持って
くれる。一人でも多く
の医師にへき地医療の

素晴らしさを伝えた
い」と述べた。

県が地元勤務を義務
付ける代わりに奨学金
を出す岡山大学医学部の
地域枠コース2年・脇
地一生さんは、同診療
所などでの実習体験を
報告。「住民や行政、
他業種の方々とのわか
わりが深く、魅力ある
仕事。多くの学生が興
味を持っており、地域
医療を支える先生から

やりがいなどをもちと
伝えて」と要望した。

倉敷広済病院（倉敷
市）の江沢和彦理事長
や土庄中央病院（香川
県土庄町）の三宅賢一
院長の講演もあった。
研究会は、医師不足
が深刻な過疎地域での
医療に携わる人材を育
てようと、県内外36中
小病院の院長らでつく
る同部会などが企画し
た。（内田圭助）